

世界から人が集まる

倶知安町の冬

豊富な降雪量と上質なパウダースノーを誇る倶知安町のスキー場は、国内外を問わず人気が高く、毎年多くの観光客が訪れるウィンタースポーツ地です。外国からの観光客も平成15年頃より年々増加しています。冬のスキー場では英語や中国語など、外国語を耳にしない日はありません。

観光客にとって倶知安町の豪雪は楽しみの象徴ですが、町民にとっては「除雪」と切り離すことはできません。日々の除雪にご苦労されている方も多いと思います。今、この「除雪」を観光に活かそうと、札幌からの除雪ボランティアツアーの受け入れという取り組みが始まっています。

今月の特集では、倶知安町の冬を求めて来町する人たちを通じて、私たちの町における冬の魅力を見つめ直します。



- 1, 2. 高く積もった雪、固い雪。普段はあまり除雪をしないツアー参加者にとって、初めての体験がたくさんありました。
3. 除雪後に談笑する二人（右がツアー参加者、左が琴和町内会の方）。
4. 全員で記念撮影。食事を用意してくれた琴和町内会女性会員を含めると、100名ほどになりました。



1



2



3



4

2月9日、「地域と一緒に雪はね」をテーマに、除雪ボランティアツアーとして札幌から約40名が来町し、除雪に汗を流しました。NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会が企画したツアーで、琴和町内会で受け入れました。3月2日には2回目のツアーが計画されており、六郷親交会が受け入れ、一緒に除雪に取り組むことになっています。

1回目のこの日は、琴和町内会の除雪ボランティア隊「琴和ちょぼら隊」の人や倶知安中学校の生徒、後志総合振興局職員なども参加して、約80名で除雪に臨みました。除雪に不慣れな参加者もいましたが、琴和の人からコツを教わりながら除雪作業を進めました。

除雪は決して楽な作業ではありませんが、大勢でやるとそこには笑顔が溢れます。作業後は琴和町内会女性会員の方たちがつくってくれたカレーを食べながら、笑顔で談笑する姿が見られました。助け合いながら共に作業をした人たちの間には、確かに仲間意識が生まれていました。ツアー参加者の一人は「奥の方の雪が固くて苦労しましたが、教えてもらいながらなんとかやれました。地元の人との交流が持てて、楽しかったです」と話してくれました。

倶知安町の冬は、時には「除雪」によって苦労することがあります。その「除雪」を通じて人と人との交流を図っていく今回のような取り組みは、これからの倶知安町にとって一つの活力になるのではないでしょうか。

除雪を楽しもう!?!札幌からの除雪ボランティアツアー

世界中から求められる至高のパウダースノー！

倶知安町の冬の観光キーワードといえば雪です。上質なパウダースノーは世界的にも有名で、倶知安町の雪を求めて大勢の方が来町されます。平成24年度の観光客数は約148万人。そのうち12～3月の観光客が約72万7千人。全体の約半分が冬に来ていることから、その人気が分かります。

外国人観光客も年々増加しています。宿泊を伴う観光客（以下、宿泊客）は、平成24年度は全体で約49万2千人で、そのうち外国人宿泊客は約3万8千人でした。平成14年度が約1,600人ですので、この10年で約24倍も増えたことになります（下グラフ参照）。

外国人宿泊客は長期滞在する傾向にあります。宿泊客全体の宿泊延数は約86万7千。1人当たり約1.8泊です。対して外国人宿泊客のみの宿泊延数は約22万8千（過去最高）。1人当たり約6泊です。その90%以上が冬に宿泊しています。これは、外国人が長期滞在をしながらパウダースノーを楽しんでいることを示しています。

今冬の外国人宿泊客は、（一社）ニセコプロモーションボード調べで、1月末現在で昨年度比164%という数字が出ています。ニセコ町の施設を含む11宿泊施設を対象に調査したのもので、そのまま倶知安町の現況というわけではありませんが、今冬も大勢の方が来町されています。近年では日本の文化や料理などを楽しみに来る人も増えており、ますますこの地域の観光熱が高まっていきそうです。



5, 6. スキー場では大勢の外国人で賑わっています。

7. ラーメン屋の前で見かけた外国人の家族。外国人にもラーメンは大人気です。

8. 札幌から高校生がスキー研修に来ていました。

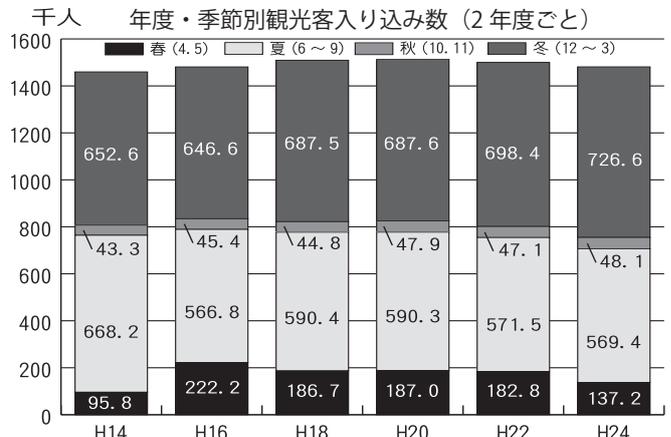
倶知安町の冬が持つ魅力。広がる未来の可能性。

冬期間に倶知安町に居住する外国人も増えていきます。1月末現在で、町内在住の外国籍住民は700人（過去最高）。昨年10月末では290人でしたので、いかに冬期間に来町されているかが分かります。その一因として、外国人が働きやすい環境が整ってきていることがあげられます。外国人による現地法人は平成24年度で83社。平成14年度が6社でしたので、約14倍に増えています。観光目的だけでなく、就労も兼ねて来町される外国人が増えてきており、スキー場近郊では外国人の観光客・従業員でにぎわっています。

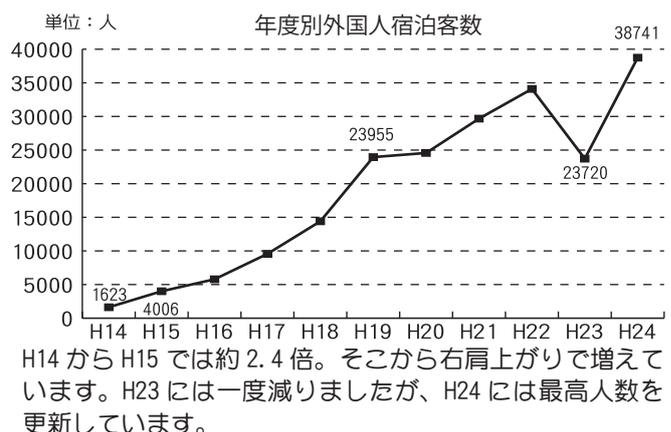
もちろん日本人にとってもパウダースノーは人気です。スキー場には日本人観光客も大勢来ています。スキー研修として町外から来る学校も多くあります。スキー研修に来ていた札幌の高校の先生は「札幌のスキー場より広く、のびのび滑れます。雪質も良く、生徒も満足しています」と話してくれました。

観光、就労、教育、除雪。さまざまな角度から倶知安町の冬は注目されています。最深積雪道内記録（312cm）を持つ豪雪地帯・倶知安町にとって、雪は地域資源です。雪の持つ可能性は、そのまま倶知安町の未来の可能性につながります。人が増えることによって生じる課題は確かに存在しますが、官民一体となり乗り越えて、世界に誇れる倶知安町の冬をさらに盛り上げていきましょう。

（掲載データは、ニセコプロモーションボードのもの以外は、町の調査によるものです）



H14では冬の観光客は夏の観光客よりも少ないですが、H16には逆転しています。冬の観光客数はH24には最高人数を更新しています。



H14からH15では約2.4倍。そこから右肩上がりが増えていきます。H23には一度減りましたが、H24には最高人数を更新しています。